公立ホール・劇場等、地方公共団体の文化担当職員向け研修プログラム

ステージラボ四日市セッション 参加者募集

申込締切
2026年11月25日（水）必着

こんな方におすすめ！

◎公立ホールや劇場の役割や可能性を学び、考えたい
◎事業やホール運営の参考になる関連事例を知りたい
◎同じような課題に悩み、相談できる仲間と出会いたい

定員
各コース20名程度

開催地　四日市市文化会館
近鉄四日市駅から徒歩10分
（三重県四日市市安島2丁目5-3）

近鉄名古屋駅から
約30分
＋
徒歩10分

開講コース・日程
①ホール入門コース・②自主事業コース
2027年2月2日（火）～2月5日（金）［4日間］
③公立ホール・劇場マネージャーコース
2027年2月2日（火）～2月4日（木）［3日間］

参加費　無料
※交通、宿泊、滞在中の食事はご自身で手配、費用負担いただきます。

1 ホール入門コース

公立ホール・劇場等で企画・運営に携わる職員および地域の文化・芸術に携わる地方公共団体職員で、公立ホール・劇場において業務経験年数１年半未満（開館準備のための組織は年数不問）の方。

コーディネーター　**岩崎 正裕（劇作家・演出家／劇団太陽族代表）**

演劇や音楽のワークショップ体験を通じて、鑑賞型に留まらない公共ホールの事業のあり方を考えます。まずは体験、自己の身体感覚の中で何が揺らぎ、何が呼び覚まされるのか。ディスカッションによる参加者同士の交流の中から、共通の悩みが浮かびあがるかもしれません。そのことを土台に、それぞれの地域の特色ある文化事業を展望しましょう。

2 自主事業コース

公立ホール・劇場等で企画・運営に携わる職員および地域の文化・芸術に携わる地方公共団体職員で、自主企画による事業を実施している公立ホール・劇場において業務経験年数が２～３年程度の方。

コーディネーター　**松本 志帆子（藁工ミュージアム 学芸スタッフ／NPO 蛸蔵 理事）**

文化芸術を創造し、楽しむことは、居住地域や国籍、性別、年齢、障がいの有無、社会的立場等にかかわらず、誰もが持つ生まれながらの権利です。さまざまな法整備や社会の変化を背景に、劇場や音楽堂には、社会参加の機会をひらく社会包摂の拠点としての役割が求められています。本コースでは、その背景を学ぶとともに、種々の事例や当事者との対話を通じて、共生社会の実現に向けた取り組みを各地域で始めるための道筋を一緒に探りましょう。

3 公立ホール･劇場マネージャーコース

公立ホール・劇場等で企画・運営に携わる職員および地域の文化・芸術に携わる地方公共団体職員で、公立ホール・劇場において管理職程度の職責を持つ方。

コーディネーター　**松浦 茂之（公益財団法人三重県文化振興事業団参事、三重県文化会館副館長兼事業課長）**

地方の人口減と超高齢社会が進む中、これからの劇場はどうあるべきか？劇場の利用率や主催事業の入場率など、かつての定量的な成果指標がもはや時代遅れとなった感があります。「場」としての劇場の魅力をどう高めていくかを考えながら、自治体の地域全体を「面」として捉え、最適な文化振興を図るにはどのような事業展開が考えられるのか、みんなで楽しく一緒に考えます。

（一財）地域創造　芸術環境部　研修担当
TEL　：03-5573-4066
E-mail：kensyu@jafra.or.jp

申込方法・各コースの詳細は
裏面をご覧ください！

主催／（一財）地域創造、（公財）四日市市文化まちづくり財団　共催／四日市市　後援／三重県

コーディネーターからのメッセージ・プロフィール

皆さまのご参加を
お待ちしております！

1 ホール入門コース

どの職場も人員的に、或いは予算の面でもきっとギリギリですよね。突然の方針転換に右往左往する日々。お察し申し上げます。私は制作者でなくアーティストなので、様々な地域でたくさんの文化事業担当者と出会ってきました。その体験から、心が通じ合う担当者には共通点があることに気づきました。それは、その人自身に「本当の感動体験がある」こと。もちろん音楽、演劇、ダンス、美術等々、ジャンルは何でもいいのですが、今、自身が担当している事業の必要性が腑に落ちている人、と言い換えることもできます。しかし、そんな人たちだけが配置された職場なんて見たことありません。一人一人が「言葉」を獲得すれば交流が生まれます。そしてきっと摩擦も。けれども、それは市民社会に暮らす人々の真の豊かさに繋がるはずなのです。合理性のみが追求される困難な世の中ですが、ステージラボでの四日間は語り合う時間でもあります。上司に気兼ねする必要もありません。対話の中から、自身の指針となるものを探してください。

1963年三重県鈴鹿市生まれ。82年大阪芸術大学舞台芸術学科在学中に「大阪太陽族」を旗揚げ。90年に劇団名を199Q太陽族に改名。2001年から現在の劇団太陽族で活動を継続。94年に「レ・ボリューション」で第１回OMS戯曲賞佳作を、97年に「ここからは遠い国」で第４回OMS戯曲賞大賞を受賞。他に大阪市咲くやこの花賞、兵庫県芸術奨励賞等を受賞。地域と連携した市民参加演劇やワークショップ等を多数手掛ける。大阪芸術大学短期大学部メディア・芸術学科教授。

コーディネーター　**岩崎 正裕（劇作家・演出家／劇団太陽族代表）**

2 自主事業コース

劇場や音楽堂が、文化芸術を鑑賞・創造する場にとどまらず、誰もが社会とつながり、参加できる機会をひらく社会包摂の拠点としての役割を求められる中、さまざまな人が参加できるよう工夫された取り組みが広がっています。一方で、「取り組まなければならない」「取り組みたい」と思いながらも、なかなか一歩を踏み出せずにいる方も多いのではないでしょうか。なぜ取り組む必要があるのでしょうか？始めるためのハードルは何でしょう？そして、その先にはどのような可能性があるのでしょうか？今回は、多様な方たち、特に障がいのある方たちが参加できるよう取り組んださまざまな事例を紹介するとともに、みなさんが抱える課題やハードルについて伺い、障がいのある方も交えて対話するプログラムを考えています。みなさんがこれからこうした事業に取り組むための一歩を、一緒に見つけていきましょう。

大学で歴史を学んだ後、ボランティアを通じて現代アートに触れ、アートに携わる活動を行うようになる。2010年学芸スタッフに着任。開館準備から運営に関わり、展覧会やワークショップ、演劇・音楽・ダンス公演、映画上映会などを企画・実施。障がいの有無に関わらず多様な方との創作活動に取り組むほか、障がいのある方の表現活動のサポートや人材育成なども行う。様々な分野をつなぐネットワークをつくりながら、その時々のそれぞれの「適当」を大切に、様々な「枠」が広がり、誰もが個を尊重される社会を目指し活動している。

コーディネーター　**松本 志帆子（藁工ミュージアム 学芸スタッフ／ NPO 蛸蔵 理事）**

3 公立ホール・劇場マネージャーコース

2022年大分セッション以来2度目となる同コースコーディネーターを務めます。コロナ禍を経てのわずか4年後ですが、この間も社会はめまぐるしく変化しています。東京一極集中による地方の人口減が加速し、少子化・超高齢社会も歯止めがかかりません。そして大国の思惑で紛争の絶えない世界、ＡＩの台頭などグローバルな環境も急変しています。このような先行き不透明な時代に、私たちの公立ホール・劇場はどうあるべきでしょうか？劇場の利用率や主催事業の入場率など、かつての定量的な成果指標が最適な劇場の評価になるのでしょうか？
実のところ私もその明快な答えは持ち合わせていないのですが、少なくとも時代に合わせて変化していきたい衝動と、考え続ける意欲は持ち合わせています。「これからの劇場が目指すべき道は何か？」同じような志を持つみなさんと楽しく一緒に考える研修になることを期待しています。

1968年三重県四日市市生まれ。金融機関等の民間勤務を経て2000年より三重県文化振興事業団職員として勤務。総務部を経て2007年に事業課へ異動し2019年より現職。総務部では組織改革、業務改革に携わり、ISO9001の導入、中期経営計画策定、指定管理者応募作業等を担当。事業課では事業統括と演劇事業を中心に担当し、複数のプロ劇団と公共ホールによる演劇制作「トリプル3演劇ワリカンネットワーク」、市民参加の疑似劇団活動「ミエ演劇ラボ」、注目劇団を紹介する「Ｍゲキセレクション」、まちなかリーディングフェス「ＭＰＡＤ」、「'介護を楽しむ''明るく老いる'アートプロジェクト」「なりかわり標本会議」等をプロデュースし、現在に至る。

コーディネーター　**松浦 茂之（公益財団法人三重県文化振興事業団参事、三重県文化会館副館長兼事業課長）**

申込締切　2026 年 11 月 25 日（水）必着

申込方法　**当財団ウェブサイト（右記コード）より「ステージラボ四日市セッション募集要領」をご確認いただき、専用フォームよりお申込みください。**

アンケート内容などを考慮のうえ、参加コースと参加可否の調整を行い、2026年12月中をめどにご連絡いたします。